

【現代の精神世界の巨人－サティヤ・ナラヤン・ゴエンカ】

2013年9月29日、サティヤ・ナラヤン・ゴエンカ師がインドのムンバイの自宅で亡くなりました。一部の高名な指導者ほどには知られていませんが、ゴエンカ師はヴィパッサナー瞑想の、現代の最も重要な指導者として広く認められています。

インドの古代パーリ語で「ヴィパッサナー」という語は、物事をありのままに観察することを意味します。ヴィパッサナー瞑想は、シンプルかつ実践的で、宗教に属さない、自己を変革するための自己観察術です。仏教の伝統から生まれたものですが、特定の信条を信仰する必要はありません。健全で実りのある人生を求めている人なら、誰でも実践できます。

ヴィパッサナーは、訓練を受けた指導者によって10日間の合宿コースにて教えられます。

ゴエンカジ(と親しみを込めて知られています)は、1924年にミャンマーのマンダレーで生まれました。19世紀後半に祖父がインドから移住し定住した土地でした。高校卒業後の1940年に家業に就き、第二次世界大戦中はインドで過ごしましたが、終戦後はミャンマーに戻りました。戦後の数年間で先駆者的な実業家として大きく成長したゴエンカジは、いくつもの工場を造り、多くの人びとを従業員として雇いました。また、ミャンマー国内で大きな影響力をもつインド人コミュニティのリーダーとなり、ビルマ・マールワーリー商工会議所やラングーン商工産業会議所といった組織を率いるようになりました。

しかし、社会的名声や物質的成功と引き換えに、ゴエンカジは精神的緊張が原因の消耗性偏頭痛に悩まされるようになります。医師はモルヒネを処方して激烈な痛みを和らげようとしたが、治癒することはできませんでした。数カ国に赴き、専門医に診てもらいましたが、苦しみから脱け出す希望を見つけられないまま、ミャンマーに帰国するしかありませんでした。

ある友人がゴエンカジにヴィパッサナー・コースに参加するようにアドバイスしたのは、そうしたときでした。最初は抵抗がありました。保守的なヒンドゥー教の家庭に生まれたゴエンカジは、異教に関わりたくありませんでした。決心を変えたのは、ヤンゴンの国際瞑想センターに住む指導者のサヤジ・ウ・バ・キンに出会ってからでした。上級公務員であり、瞑想の熟達者であるウ・バ・キンは、ゴエンカジの不安を和らげ、ヴィパッサナーが普通に生活する世界中の人びとに恩恵をもたらす、普遍的かつ実践的な瞑想法であることを確信させることに成功したのです。

1955年、ゴエンカジは、ウ・バ・キンの指導のもとで最初のヴィパッサナー・コースを受けました。10日間コースによって偏頭痛は治りましたが、それは副次的な効果に過ぎませんでした。もっと重要なことは、ヴィパッサナーを通して、ずっと探し求めていた心の安らぎを見つけたことです。また、今まで自分が傾倒してきたインドの精神的伝統についての新しい洞察も得られました。

その後の数年間に、ゴエンカジは多くの家族や友人を国際瞑想センターでのコースに連れて行きました。自身もまた忠実に瞑想を続け、毎年コースを受け、ウ・バ・キンの指導のもとで坐りました。その一方で、ビジネス上の経験も積んでいきました。しかし、裕福になることだけを追い求めるのではなく、社会に利益をもたらすことを目指していました。

1962年、再び人生の転機が訪れました。ミャンマーで新しく成立した軍事政権が、国のすべての産業を国有化することに決めたのです。ゴエンカジは築いてきたすべての事業と家族の住居を一瞬にして失いました。それでも、この喪失に微笑んで立ち向かいました。元従業員たちには、自分たちの工場が繁栄するように働き続けるよう、励ました。自身はウ・バ・キン先生と一緒に多くの時間を過ごす機会が与えられたことを喜ばしく思いました。先生の指導のもと、ヴィパッサナーの修行と研究をいつそう進めることができたのです。

ウ・バ・キンは、国際瞑想センターに来るヒンドゥー語を話す生徒への通訳をゴエンカジに頼りました

た。しかし実際は、先生ははるかに重要な役割をゴエンカジに用意していました。長い伝統の中で、ミャンマーはインドに大きな借りがありました。それは、ダンマというかけがえのない宝石、つまり、ブッダの教えです。教えの核心であるヴィパッサナーをインドに戻すことで、その借りを返す時が、間近に迫っていたのです。ウ・バ・キン自身はミャンマーを離れることができなかつたため、ゴエンカジを特使として派遣するため教育しました。1969年についにその機会がやってきました。インドの両親に会いに行く許可が下りたのです。ウ・バ・キンは、ゴエンカジをヴィパッサナーの指導者に任命し、「お前が行くのではない、私が行くのだ」と言いました。ウ・バ・キンは、ヴィパッサナーをその発祥の地に復興するという生涯の任務を弟子に与えました。ヴィパッサナーが何世紀も前に失われたその地を起点に、教えが世界中に広まることになるのです。

ゴエンカジはインドでの最初のコースを1969年7月に実施しました。これがきっかけとなって、すぐに次、さらにその次のコースが行われることになりました。その後数年間、ゴエンカジは国中を縦横に巡り、あらゆる境遇の人びとにヴィパッサナーを教えました。10年間の活動後、1979年には国外に渡り、ヴィパッサナー・コースを催しました。アジア、北アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランドにて開催された400回以上のコースで、自ら何万人もの人びとを指導しました。

ゴエンカジは、文筆家としても多くの作品を残し、精神的なテーマを扱った本や記事や詩が多くの言語に訳されています。また、人びとを惹きつける講演者でもありました。台湾の法鼓山の僧院、スイスのダボスでの世界経済フォーラム(2000年)、ニューヨークの国連でのミレニアム世界平和サミット(2000年)、ニューヨークとオランダでのスピリット・イン・ビジネス総会(2002年)など、さまざまな地域の会場に招待されてスピーチを行いました。

インドにおけるゴエンカジの重要な功績の一つに、宗教間の調和を促したことが挙げられます。何千人のカトリックの神父、仏教の僧侶、ジャイナ教の禁欲主義者、ヒンドゥー教のサンニャーシ(訳注・出家者)、そしてほかの宗教の指導者たちがヴィパッサナー・コースを受けに来ました。宗派に属さないというヴィパッサナーの性質により、イデオロギーの違いを超えて、人びとは、改宗の心配をせずに恩恵を授かることができるのです。

ますます増加する需要に応えるべく、1981年からゴエンカジは、自分の代わりにヴィパッサナー・コースを指導するアシスタント指導者の育成を開始しました。これまでに1300人以上のアシスタント指導者が育成され、彼らによってヴィパッサナー・コースは世界中で実施されています。

何千人のボランティアの援助のもとに、アシスタント指導者によって、今では90カ国で年間1500回以上のコースが、多くのヴィパッサナー・センターで、あるいは施設を借りて、開催されています。毎年12万人以上の人びとがヴィパッサナーの合宿に参加しています。

この瞑想法を学びたいと心から希望し、肉体的にも精神的にも10日間のプログラムを完遂できる人なら、誰でもコースに参加できます。カースト、肌の色、コミュニティ、国、宗教、性別による差別はいっさいありません。コースは、食事、宿泊施設、指導などすべてが無料で提供されます。これらの費用は、この瞑想法に感謝の気持ちをもつ古い生徒の自発的な寄付によって賄われています。ゴエンカジが金銭的な報酬を受けることは一度もありませんでした。いつも自身の自活手段を保っていました。同様に、アシスタント指導者が奉仕に対する物質的な恩恵を受けることもありません。そうすることで、教えは商業主義に汚されることなく保たれています。

瞑想センターと瞑想コースはゴエンカジの庇護のもと、すべてヴィパッサナー瞑想の実践に重点を置いて運営されています。しかし、ヴィパッサナーの修行の起源を研究して明確にするために、1985年、ゴエンカジは、ブッダの教えの理論と実践の研究を行う目的で、ヴィパッサナー研究所を設立しまし

た。ヴィパッサナー研究所では、すべてのパーリ語のティピタカとその注釈書を出版してきました。さらに、膨大な文献を書籍やCDとして、またインターネットを通して無料配信しています(<http://www.tipitaka.org> 参照)。

ゴエンカジはまた、インドのムンバイ郊外のグローバル・ヴィパッサナー・パゴダ(www.globalpagoda.org)建設に向けて人々を激励し触発しました。ブッダの教えの真髄であるヴィパッサナーを守り保ちつづけたミャンマーに感謝の意を表して、パゴダは同国ヤンゴン市にあるシュエダゴン・パゴダにならい設計されています。グローバル・ヴィパッサナー・パゴダには、ヴィパッサナー瞑想者をはじめ、各仏教国からの巡礼者や、ブッダとその教えについて学ぼうとやって来るインドや海外からの訪問者など、多くの人びとが訪れています。

S・N・ゴエンカに授与された称号の一覧

国及び州政府より

インド政府：

ゴエンカジの社会貢献を讃えて2012年パドマ・ブーシャン賞を授与

インド国内の様々な州：

公賓としてゴエンカジを招待

ミャンマー政府：

ゴエンカジを「ワウンニヤ キャウ ヒン」（世界で名を広める者）と賞讃し
国賓としてゴエンカジを招待し、「マハー サッダンマ ジョーティ ダージャ」（ダンマの灯火を掲げる者）として賞を与える。

スリランカ政府：

国賓としてゴエンカジを招待、「ジーナ サーサナ ソッバーナ ダージャ」（直訳：ダンマの実践を掲げ、ブッダの教えを美しく飾る旗）と賞讃する

名誉学位：

インド、ビハール「ナーヴァ ナーランダ マハーヴィハラ」パーリ語院文学科博士号

「ヴィッジヤ ヴアリーディ」（知識の海原）と称される

インド、サルナス チベット研究中央学院文学科博士号

「ヴィッジヤ ヴアグパティ」（知識の語り手として先端を行く者）と称される

仏教団体からの名誉：

インド「マハーボーディ」会より「ヴィパッサナーガーマ カッカバッティ」（ヴィパッサナーの王の中の王）と称される

インド僧侶サンガ総会より「ダーマ ムーティ（ダンマ ムッティ）」名誉賞

ミャンマー「ペゴ マハーヴィハール」院より「マハー ウパサカ ヴィシュヴァ ヴィパシヤナカルヤ」（偉大な社会人ヴィパッサナー指導者）と称される

ミャンマー、ヤンゴン市「カレン パリヤッティ」僧院より「アドウーニカ スウイリ ダンマ アソーカ」（当時代のアショーカ王）と称される

スリランカ「コッテ スウリ カルヤニ サマグリダーマ マハー サンガ サバ」最高院（国内で最高の仏教僧会）より「パリヤッティ ヴィサーラダ」（教義の精通者）と称される

スリランカにおいて「アッガ マハー ダンマ パカラヤ」と称される

サティヤ・ナラヤン・ゴエンカ師の逝去

サティヤ・ナラヤン・ゴエンカ師は、2013年9月29日(日) インド時間午後10時40分、自宅で安らかに他

界しました。享年90でした。

師が幸せでありますように。安らかでありますように。
解放されますように。

「条件付けられたすべてのものは無常である。
このことを智慧をもって理解するとき、人は苦を厭うことを知る。これが清浄への道である」

ダンマパダ 277